

平成 20年度共同利用実施報告書(研究実績報告書)

1. 共同利用種目 (該当種目にチェック)

- 特定共同研究(A) 特定共同研究(B) 特定共同研究(C) 一般共同研究
 地震・火山噴火予知研究 施設・実験装置・観測機器等の利用
 データ・資料等の利用 研究集会

2. 課題番号または共同利用コード 2006-B-05

3. プロジェクト名、研究課題、集会名、または利用施設・装置・機器・データ等の名称

和文：フィリピン海プレート北端部の運動モデルの構築英文：Construction of kinematic model for the northern convergent margin of the Philippine Sea plate

4. 研究代表者所属・氏名 高知大学教育研究部自然科学系理学部門・田部井隆雄
 (地震研究所担当教員名) 大久保修平

5. 利用者・参加者の詳細 (研究代表者を含む。必要に応じ行を追加すること)

氏名	所属・職名	利用・参加内容または施設,装置,機器,データ	利用・参加期間	日数	旅費支給
田部井隆雄	高知大学教育研究部・教授	研究代表者 総括, GPS 観測	平成 20 年 7 月～ 21 年 3 月	10	有
三浦 哲	東北大学大学院理学研究科・准教授	モデル構築	平成 20 年 10 月	4	無
太田 雄策	東北大学大学院理学研究科・助教	モデル構築	平成 20 年 10 月	4	無
木股 文昭	名古屋大学大学院環境学研究科・教授	水準測量, 総括	平成 20 年 7 月～ 21 年 3 月	10	有
田所 敬一	名古屋大学大学院環境学研究科・准教授	GPS 観測	平成 20 年 9 月	4	無
伊藤 武男	名古屋大学大学院環境学研究科・助教	水準測量	平成 21 年 1 月	4	無
渡部 豪	名古屋大学大学院環境学研究科・研究員	GPS 観測	平成 20 年 9 月	4	無
鎌田 浩毅	京都大学大学院人間・環境学研究科・教授	資料収集, 総括	平成 20 年 7 月～ 21 年 3 月	10	有
石川 尚人	京都大学大学院人間・環境学研究科・教授	資料収集	平成 21 年 1 月	2	無
久保 篤規	高知大学教育研究部・准教授	地震観測	平成 21 年 1 月	2	無
小澤 拓	防災科学技術研究所・主任研究員	SAR データ解析	平成 20 年 12 月～ 21 年 1 月	4	無
棚田 俊収	神奈川県温泉地学研究所・主任研究員	地震観測	平成 21 年 1 月	4	無
原田 昌武	神奈川県温泉地学研究所・技師	地震観測	平成 21 年 1 月	4	無
宮尾 佳世	東北大学大学院理学研究科・大学院生	モデル構築	平成 20 年 5 月	2	無
Agustan	名古屋大学大学院環境学研究科・大学院生	モデル構築	平成 20 年 10 月	2	無
小澤 和浩	名古屋大学大学院環境学研究科・大学院生	モデル構築	平成 20 年 10 月	2	無

石川公美子	高知大学大学院理学研究科・大学院生	モデル構築	平成20年5月～ 21年2月	10	無
島本 麻美	高知大学大学院総合人間自然科学研究科・大学院生	GPS観測支援	平成20年9月	4	無
竹内 雅也	高知大学大学院総合人間自然科学研究科・大学院生	地震観測支援	平成21年1月	2	無

6. 研究内容（コンマ区切りで3つ以上のキーワードおよび400字程度の成果概要を記入）

キーワード：フィリピン海プレート、プレート沈み込み、伊豆半島、島弧会合部、GPS

本研究は3年目の最終年度にあたり、これまでの観測と測定を継続するとともに、課題名にも挙げたフィリピン海プレート北端部の運動モデルの構築を行った。具体的作業として、前年度に引き続き神津島と銭洲岩礁でGPS観測を、神津島で水準測量を、伊豆半島北部でGPS観測と地震観測を、九州南部で古地磁気方位データの収集を、および神津島を対象としてALOS/PALSARデータの干渉解析を行った。これらの結果と全国GPS観測網成果および一元化震源分布データを考慮し、伊豆半島とその周辺部を対象にした運動モデルを作成した。このモデルでは、フィリピン海プレート本体から分離した伊豆ブロックが本州弧と衝突しながら、伊豆半島下に存在する水平デタッチメントにおいてもプレート相対運動の何割かが消費されているとするものである。以上の成果を学会で講演するとともに、研究成果報告書(冊子体)にまとめた。

7. 研究実績報告（公表された成果のリスト*1または2000～3000字の報告書）

(*1論文タイトル、雑誌・学会・セミナー等の名称、謝辞への記載の有無、ポイント数、電子ファイル添付のこと)

Harada M., M. Iwakuni, and T. Tanada, Characteristics of crustal strain in the western Kanagawa Prefecture, Japan, Proceeding of International Symposium on GPS/GNSS, 2008, p69-77, 謝辞記載無し, ポイント3, 添付ファイル p1-9.

名古屋大学環境学研究科・気象庁, 精密水準測量による神津島における上下変動 (2001-2009年), 火山噴火予知連絡会 2009年2月資料, 謝辞記載無し, ポイント3, 添付ファイル p10.

石川公美子・田部井隆雄, 伊豆半島とその周辺の地殻速度場と変動様式の推定, 日本地球惑星科学連合 2008年大会予稿集, D107-006; 謝辞記載無し, ポイント2, 添付ファイル p11.

Tanada T., R. Honda, Y. Yukutake, M. Harada and H. Ito, Shallow seismicity and resistivity imaging by CSAMT method in Hakone Owakidani Geothermal Field, Abstract of 7th General Assembly of Asian Seismological Commission and the Fall Meeting of Seismological Society of Japan, 2008, X4-003, 謝辞記載無し, ポイント2, 添付ファイル p12.

Harada M., T. Tanada, and M. Iwakuni, Temporal variations of crustal deformation in the northern margin of the Philippine Sea plat, Abstract of 7th General Assembly of Asian Seismological Commission and the Fall Meeting of Seismological Society of Japan, 2008, Y4-206, 謝辞記載無し, ポイント2, 添付ファイル p13.

Ishikawa, K. and T. Tabei, Kinematic model of the Izu Peninsula in the northern margin of the Philippine Sea plat, Abstract of 7th General Assembly of Asian Seismological Commission and the Fall Meeting of Seismological Society of Japan, 2008, Y4-207, 謝辞記載無し, ポイント2, 添付ファイル p14.